

単元名 【旧】いっしゅんの形から(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 見る人にも伝わるように、作品を固定する角度や色、置く場所を考え工夫して作品に表すことができる。
- (2) 固まった形を、いろいろな高さや方向・角度から見て、つくりたいものを見付けることができる。友人の作品から、見立ての面白さや見せ方の工夫を感じ取ることができる。
- (3) 液体粘土で固めた布の形の高さや膨らみの変化により、布のつくりだす形の変化を楽しもうとする。

標準的な展開例

06080108_001

【準備等】液体粘土、アルミ針金、ひも、ポリシート、液体粘土用容器、ペンチ、布、芯材となるもの（ペットボトル、瓶、缶、ハンガー、洗濯ばさみ等）新聞紙、装飾材、色画用紙、角材、板、釘、金づち、木工用接着剤、化学接着剤、粘着テープ、ワークシート、水彩用具一式、雑巾、はさみ、汚れてもよい服装

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1, 2 芯になるものに布をかぶせイメージを広げ、液体粘土で形を作る。</p> <p>○教科書の参考作品を見る。</p> <p>★液体粘土で不思議な形をつくろう</p> <p>○芯になるものに布をかぶせたり、布をつるしたりしてイメージを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豚に見える。 ・飛んでいる鳥みたい。 <p>○液体粘土を浸した布で形をつくり乾かす。</p> <p>3 着色し飾り付けをする。</p> <p>○着色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にじみ、ぼかし、たらしなど様々な技法を取り入れ変化を出す。 <p>○飾りを付ける。</p> <p>○展示の仕方を考える。</p> <p>4 鑑賞する。</p> <p>○お互いの作品に名前を付け合い、その理由について話し合う。（言語活動）</p>	<p>・教科書5・6下 P.32, 33を参考に、液体粘土で固まった布の感じや芯材への布のかぶせ方、つるし方によって形が変化することを知る。</p> <p>・教科書の参考作品や実物の参考作品を見せながら、学習課題をつかませる。</p> <p>・いろいろな高さや方向・角度から見てイメージを広げさせる。</p> <p>・布の形だけでなく、しわやすその形の面白さに気付かせる。</p> <p>・布にしわをつけたり、かぶせ方による凹凸の違いをつくったりして、変化をもたせる。</p> <p>・枝や針金などを通して面白い。</p> <p>・固まると芯を外しても立つことを知らせる。</p> <p>【評】活動を通して、布の形の変化を楽しむ様子から「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・固まった布の形をさまざまな方向から見て見立て、つくりたいものを見つけさせる。</p> <p>・台紙にも色をつけてイメージが伝わりやすくさせる。</p> <p>・表現したいテーマが伝わりやすい着色方法を考えさせる。</p> <p>・葉っぱや花、枝などを装飾材として使用し、飾り付けをさせる。</p> <p>【評】作品を通して、固まった布の形の特徴を生かし、つくりたいものを構想する「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・立てて置きたい場合は土台をつけるとよい。</p> <p>・美しかったり面白かったりした形についてワークシートに記入し、発表させる。</p>

【 備 考 】

この単元では、液体粘土で固めた布の形を見立て、想像を広げて立体に表す活動をする。芯材の組み合わせ方や布のつるし方を工夫することで、いろいろな形を表現させたい。対象の形をいろいろな方向から見ることで見え方が変化することに気付かせ、そこからイメージを広げることが大切である。言語活動としては、鑑賞の活動の中で、お互いの作品に名前を付け合ったり、その理由について意見を交換し合ったりできるとよい。